

Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ



愛せしもう みんなの人生を豊かにするために

2021～2022 年度
国際ロータリーのテーマ

- ◆例会日/週火曜日 12:30～13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 3階
- ◆会長 / 小林 秋生 ◆副会長 / 加藤 輝男
- ◆幹事 / 朝倉 俊次 ◆広報・情報委員長 / 両川 博之

NO. 1533 令和3年11月9日



◆点鐘	小林 秋生会長
◆SAA	両川 博之委員
◆ソング	君が代・誕生日

◆誕生祝

掛川興太郎会員・黒澤 明男会員・小林 秋生会員
倉本 浩行会員

◆結婚祝

小林秋生会員 泰子夫人
美齊津 明会員 寿美江夫人
望月 完会員 さち子夫人

◆皆勤祝

小林 秋生会員 ⑰

【会長挨拶】小林 秋生 会長

“秋深し、隣りは何をする人ぞ” 自然は、見事な錦秋の景色となり、コロナどこ吹く風と色合いを濃くしております。皆さんは、体調いかがでしょうか。毎々のご挨拶でコロナ禍に絡んだお話しばかりでどうもすみません。先日、衆議院の選挙がありまして、あまり、変化もなく自民党体勢の政治が継続されました。すこしの批判はありましたが、岸田政治は活路ある希望的な新時代の政治に変わって欲しいものです。しかし、政治もそうですが、経済も、教育も、文化も、我々の生活も社会事象全てにコロナが絡んでいて離れられません。国内の状況の数字的には非常に希望的な思いであります。出来ればこの状況のまま、この冬を乗り切って収束に向かって欲しいと誰もが願っています。しかし世界の状況も同じ様な状況でしょうか？ワクチンの普及が効いて、開放的なニュースの中、未だ一日の感染数が万単位の国がいっぱいあります。

ロータリーの友7月号に元国連事務次長の明石康(あかしやすし)さんのお話“コロナ後の日本はどうあるべきか”が載っておりました。

現在、世界で至急解決すべき一番の問題が、新型コロナウイルスである事はどの国でも変わりがない。しかし世界が抱えるそれ以外の諸問題を常に意識し続けることを決して忘れるな、と言う事でした。これは大変重要な事で、全てにコロナ・パンデミックが絡んでいるとの事でありませす。今、中国において感染者数、そして死者の数が世界のトップ10に入らないところまで落ち着いたとの事。世界における超大国と言えばアメリカと中国であります。これに次ぐ第3と第4が日本とドイツであると。言わゆるコロナパンデミックの中で、各々、自国の問題を治められるのは、国力の大きさに比例するとのことであります。

国連の中の組織には15の専門機関があり、コロナの問題は、WHO(世界保健機関)の担当で、世界の保健所みたいな部門です。また、会議・行政的な組織は大きく分けて第1に193ヶ国から成る国連総会、第2に15ヶ国から成る安全保障理事会、(常任理事国に米国、中国、ロシア、英国、仏国)、第3に国連行政の権力として事務総長をトップとする国連事務局があります。国連専門機関であるWHOの行政関係も第2の常任理事国のうち1ヶ国の反対があれば機能しないとの事もありました。

さて、結論として、日本は自国の問題も重要であるが、もっと他国にも手を携えるべきではないか。ロータリークラブもその機関のひとつではないでしょうかとの明石康さんの弁でありました。我が国は、このまま上手に行って来春あたりから、消えていたインバウンドを招き入れ、観光も交友事業も以前に戻れる様に努力しないとなりません。

【幹事報告】朝倉 俊次 幹事

- 第50回ロータリー研究会記念講演会オンライン視聴案内
日時 12月8日(水)開場 14:30 開会 15:00
<https://ri-seminar.com>
- 国際ロータリー日本事務局よりロータリーレート変更について
11月より1ドル=114円(現行112円)
- 小諸青年会議所より感恩報謝式典案内
日時 11月28日(日)
会場 小諸市文化センター
- 例会変更
佐久コスモスRC 11月1日(月) 定刻受付なし
11月15日(月) 定刻受付なし
上田RC 11月8日(月) 定刻受付あり
11月22日(月) 定刻受付なし
12月20日(月) 定刻受付なし
小諸RC 11月3日(水) 定刻受付なし
11月24日(水) 定刻受付なし
- 週報
佐久、上田六文銭RC
・来週11月16日(火)職場訪問 昼食・クラブ伝達及び報告事項は(株)スリーアール長野で12:30から行い、移動して13:00より(有)共進製作所和田工場で職場訪問
欠席の場合は12日(金)3時まで事務局へ
・例会終了後理事会
【本日の配布物】
週報1532号、ガバナー月信11月号、ロータリーの友11月号

◆出席報告 小山 等 委員長

会員数 20名 出席義務者 20名 免除者 0名
本日 出席 16名
事前 MU 0名 80.00%
前々回(10/19) MU 0名 85.00%

◆ラッキー賞

NO. 4 朝倉 俊次 君

◆委員会報告

クラブ広報・情報委員会 橋詰 希望 委員

・ロータリーの友 11月号紹介

クラブ運営委員会 矢島栄一 委員

・ゴルフコンペ案内

R財団・米山記念奨学会委員会 青松英和 委員長

・ロータリー財団特別寄付金お願い

◆ニコBOX 黒澤 明男 委員

小林 秋生君	今日は誕生祝、結婚祝、皆勤祝を戴きました。ハットリックでありまして今後も励みたいと思います。
加藤 輝男君	ご苦労様です。今日は掛川会員の人生の卓話を楽しみにしております。宜しくお願い致します。
倉本 浩行君	ジムに行く様になりました。お腹が縄文のビーナスみたいです。
前田 博志君	掛川さん、ありがとうございます。

小池平一郎君	9/26に第34回小諸市民音楽祭が開催されました。CTK、11チャンネルで放映されています。無観客で寂しい音楽会でした。第35回は盛大にやりたいものです。掛川さん自己小伝楽しみにしています。
黒澤 明男君	誕生祝ありがとうございました。また、一年間よろしくお祈りします。

【本日のプログラム】「自己小伝 2」 掛川興太郎 会員



私は、昭和17年11月24日、母親の実家のある海野宿で長男として生まれました。予定日をだいぶ過ぎての出産で難産であつたと聞いています。今月で79歳を迎えます。当時は戦争中、裏には防空壕があったことを覚えています。小学校は坂の上小学校、昭和30年度の卒業になります。

クラスは40~45名、4クラスでした。全校生徒は約1100名前後。当時、今の校庭の場所に2階建ての木造校舎があり、今の校舎の場所が校庭でした。当時プールがありまして、水は上の田んぼの水で、サラン粉で消毒、排水路にはシジミがおりました。

修学旅行

今から10年ほど前、家の蔵を壊しましたが、その時、昭和30年度卒業の時の“修学旅行のしおり”が出てまいりまして、その文集を見ますと当時は、5~6名の母親も、旅行に参加しておりました。旅行先は、新潟県の柏崎でした。信越線で、上田、長野、直江津、汽車の旅でした。初めての海を見て、興奮したことを覚えています。帰りは上越回りで、清水トンネル、碓氷トンネル、横川ではアプト式の電気機関車に牽引さ。れて軽井沢で蒸気機関車に交換されて小諸に

中学時代

当時の西中学校は今の市役所、今の医療センターの場所は校庭でした。クラスは45名で5クラスでした。当時の中学校の先生方は、宿直があり、よく宿直室に数人の生徒を呼んでいろいろな話をしてくれました。授業中、授業に集中できない時などは、クラス全員でダム下で水遊び等、今では考えられない時代でした。

高校時代

昭和33年上田高校入学、59期生でした。当時1クラス54名8クラスでした。女子は13名おりまして、ひとクラスに集中、後の7クラスは男子のみのクラスでした。当時は蒸気機関車で下駄での通学でした。クラブ活動は郷土研究会に入っておりまして夏休みには、仲間と白川郷の合掌作りを見学、加賀藩の火薬に必要な硝石はトイレの小水から作られたとのこと、内部の構造は三階建て、煤で黒光りしておりました。最後は静岡の登呂遺跡の見学、文化祭のテーマでした。

大学時代

大学は明治の商学部、教養課程二年間は泉校舎でした。下宿は世田谷区赤堤、下宿先には7名の下宿生、大学、学部も工学部、法学部、経済、理学部、建築等バラバラ、朝、夕の二食付き。下宿のおばさんは未亡人で部屋にはテレビ。プロレスが大好きなおばさんで、力道山の大ファン、みんなでテレビを見て楽しみました。沖縄出身の上原君は当時沖

縄はアメリカの統治下で送金はドル、歯磨きはコルゲートチューブ、雪を見たのは初めてで大興奮でした。3年生からは新宿まで京王線 大学はお茶の水まで通学しました。昭和39年にはオリンピック。大学の講堂にはフェイシングの選手の練習している姿をよく見かけました。甲州街道にマラソンのアベベの走りを見に行きました。裸足で走っているのを見ました。

ツルヤへ入社

昭和40年3月、ツルヤ入社、当時は本町の店で60坪のセルフサービス方式の店でした。

小諸店開店

昭和40年12月17日、本町の店は閉店、現在小諸店の場所に移転開店、当時県内最大の売り場面積の店舗でした。当時、店頭には駐車場付きの店舗はめずらしかつた。広い売り場を埋めるのに苦労した。棚を一杯にするためには、かさ張り、回転率の良い、チリ紙、ラーメン、魚肉ソーセージ、上げ底にしたタマゴ等出来るだけかさ張り回転の良い商品を並べて、試行錯誤の毎日でした。資金繰りにも、頭を悩ませなければなりません。仕入先の間屋さんの中には請求書を遅らせてくれた間屋さんもいた。当時の問題は精肉部門でした。肉の骨抜きは肉職人に頼まざるを得ませんでした。肉の専門家である職人は専門家であるとの自負から、一般社員とは遊離した態度をとり始めた。素人でも出来る方法を考えざるを得なかった。いろいろ調べていくと、駒ヶ根のある取り仕切先が、骨を抜いて、部位別に納入してくれることが出来るとのことで、その取引先をお願いして納入してもらうことが出来ました。スライスするだけなら、素人でも可能だった。販売は対面販売、お客さんの注文によって目方を計り値段を計算してお客さんに渡す。常に販売社員は交代要員が必要でした。肉の販売をセルフ販売が出来ないだろうかと考えて調べると、陳列ケースはオープンケースが必要、秤は価格と量目とパック価格が計算できる機能が必要。当時可能な値付機はドイツの機械しかありませんでした。トレーはアメリカのモンサントで開発された透明なトレーを使い、包装は食肉専用のポリフィルムを使用して、裏側からも肉の状態が見える様にして。昭和44年県内で初めて、肉のセルフ販売に切り替えることが出来ました。

昭和45年

あるコンサルタントの先生の勧めで2月、初めてアメリカ流通業界の研修に出かけた。当時外貨規制、外貨の持ち出しは400\$以内、為替レートは360円でした。アメリカ本土への直行はできなく、ハワイでの給油が必要でした。ハワイで一泊、サンフランシスコに到着、サンフランシスコ周辺地域のSM、ショッピングセンター、等一日中見学でした。当時のアメリカ人は非常に親切で、よく話しかけてくれました。サンフランシスコで3泊してロスアンゼルスまで途中でフレズノでホリデインに泊まり、フレズノの再開発地域を見学、商店街はゴーストタウンのようでした。商店はフォーセール、フォーレンタルの貼り紙だらけ。

大規模SCの威力を目の目にしました。ロスアンゼルスは大都市近郊のSM、SC、バラエティストア、ホームセンター、百貨店等を見学、帰途は又ハワイで先生とマグロ釣りクルージング、船の船尾にはシートベルト付き椅子、利用はしませんでした。

8月野沢店開店2号店でした。肉売り場はセルフ販売でしたが、魚売り場は対面販売でした

昭和46年

12月臼田サンマルコSCが開店、靴屋さん、花屋さん、レコード店、クリーニング店、洋品店等、二階はボーリング場でした。46年10月7日、結婚、結婚式は音羽さん。妻は小学校の先生でした。

昭和47年 丸子店開店、2階は昭和堂さんでした。

昭和50年 軽井沢店開店

昭和52年

上田東店開店、当時青果商組合、魚商組合、等の反対で市議会で出店凍結宣言がされ、それ以降8年間、店が出来なくなりました。当時7店舗、上田に土地を二店舗分購入しておりました。逆にこの機会を利用して、他の競争店も開店は不可能なので、これからの会社の方向性やシステム、組織等を整備するチャンスと捉え、当時ヨーカドーの指導を終えられた、IEの専門コンサルタントの城先生に教育とコンサルタントをお願いに新橋の事務所に伺いました。3年契約、毎月3日間の指導を受けました。今のツルヤがあるのは、この先生の指導のおかげだと思っています。

この世の中に存在するモノや行為はすべて、人間の心の中から生まれる。「力」、「カタ」「カタチ」論という考え方でした。剣道、柔道、華道という様に「力」は全ての出発点、最も根源的なものであり、理念や使命、ビジョンやコンセプトといったもの、したがって企業使命や経営姿勢 行動規範 ポリシーといったものを重視する。

「カタ」はその「か」を実現する手段や方法であり、その「カタ」が追求されるとその結果として「カタチ」が出来上がる。それがツルヤの店であるし、売り場であり、商品であると思っています。

次週のプログラム : 11月16日:「職場訪問」共進製作所和田工場

次々週のプログラム: 11月23日: 法定休日の為休会